

# お祝いメッセージ

当財団にゆかりのある方々よりお祝いのメッセージをいただきました。



## 廣野 良吉様

(成蹊大学 名誉教授)

セブン-イレブン記念財団設立30周年おめでとうございます。  
財団が主催する環境市民活動助成へは、全国各地域で活躍する各種市民団体から年々数百件の応募があり、累計で助成総数は4,635件、助成総額は27億1690万2184円に達しました。

地域美化助成を除く審査では、大気・水・土壌や気候変動など各環境分野の著名専門家で構成された専門審査会による厳正な一次審査を経て、最終審査会での「社会的インパクト度合い」、「モデル化可能性有無」など、特定選定基準に基づく審査で採択された助成件数は、2022年度においては120件に及びました。時代の変遷と共に、市民団体の環境保全活動分野は一層広がり、その手法は一層科学性に富み効率化し、その方法も単独から地方自治体をも巻き込んだ連携・複合活動へと広がりを見せ、インパクトも一層広域化して持続性も高まってきたといえるでしょう。

こうして本財団の助成事業が、個別・相互交流連携支援を通じて各種環境市民団体のイニシアティブ・自立化・知見深化に役立ってきたのみならず、環境以外の活動で地域ないし全国的に従事する市民団体とも連携して、地域住民全体の環境意識の向上とともに活力ある地域経済と包摂的な社会の充実に全国津々浦々で一層貢献してきたことを高く評価したいと思います。



## 水野 正人様

(公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟 理事長)

セブン-イレブン記念財団が、創立30周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴財団は、長きにわたり日本の環境活動の取り組みを支える助成事業に加え、「セブンの森」を始めとする環境事業などに取り組み、国内の環境保護保全に多大な貢献をされています。これもひとえに、セブン-イレブン加盟店や本部、そして地域の皆さまが一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組まれてきたセブン-イレブン記念財団の皆さまのご尽力のたまものであり、青少年育成に携わる私どもとして、改めて敬意と感謝を表する次第であります。

社会情勢としても激動の時代、地域社会に対して当たり前のことができない、非常に厳しい時代が到来する中で、昨年2022年、私どもボーイスカウト日本連盟は、循環型社会を目指す環境アクション「プラごみバスターズ大作戦」を行い、環境課題の解決と学習の機会として、地域店舗や本部、財団の皆様とともに地域清掃活動を実施できたことは大変光栄でありました。当連盟としましては今後も継続して、皆様と手を携え、水も森も豊かな未来に向けて共に歩みを進め、財団の掲げる“地域に根差した社会貢献活動”に取り組む所存です。

結びに、セブン-イレブン記念財団のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 小川 浩子様

(認定特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 理事長)



この度は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団様の設立30周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

1993年の貴財団創立より、(株)セブン-イレブン・ジャパン様と全国の加盟店様にお客様から寄せられた募金が、環境をテーマとした市民活動や自然環境保護保全活動を支援されるという、気候変動や生態系維持へ危機的状況が明らかになる以前からの先見の明と地域に根差した社会貢献に対しまして尊敬の念に堪えません。2002年、当時セブン-イレブンみどりの基金様と当NPO法人とのパートナーシップ協定の締結を賜り、ナショナルトラスト運動を通して私達の活動に長くご支援を頂いております。貴財団との共有地を含めた湿原の保全、「霧多布セブンの森」事業による森づくりとその維持や湿原とつながる海の清掃など、皆様には多くの汗を流されご協力を賜りました。

また、山本理事長におかれましては、奥琵琶瀬野鳥公園木道の川沿いから水鳥をご覧いただくなど、ご視察も含め貴財団関係者様にご来訪賜り、現地を体験しお伝え下さっておりますことは、私達を動かす源となっております。地域の特徴や状況に耳を傾け成果へ導くご指導とご協力のもと、この湿原を未来へ引き継ぐ活動ができますことに感謝の気持ちしかありません。

これからも一般財団法人セブン-イレブン記念財団様が、私達の将来を明るく照らす光として、更なるご繁栄とご活躍を心からお祈り申し上げます。



## 野口 健様

(認定特定非営利活動法人 富士山クラブ 理事長)



貴財団の御創立30周年を、心よりお慶び申し上げます。この喜びの節目を迎えられましたのは、貴財団の皆さま、セブン-イレブン・ジャパンの社員や加盟店、関係者、ご家族の皆さまの環境問題解決に向けた確固とした意志と、たゆまぬ努力のたまものと感服いたしております。

振り返りますと、貴財団と富士山クラブとは、当クラブが設立された1998年以来ご支援、ご協力を賜ってまいりました。両者間で「富士山ごみチャレンジプロジェクト」を締結し、富士山麓での清掃活動をはじめ、海岸のプラスチックごみ清掃、外来種の駆除活動とさまざまな活動に取り組んでいるところです。

おかげさまで山麓のごみは年々、減少しておりますが、コロナ禍が一段落したいま、ごみの持ち帰りを周知されていない外国人観光客の増加や道路沿い、駐車場のごみのポイ捨てなど新たな課題も浮上しております。

こうした課題解決に向け、貴財団とのパートナーシップを基盤に、「富士山モデル」と呼べるような、地域一体となったごみの排出抑制、全体量削減、資源循環のモデルをつくり、SDGsとカーボンニュートラル目標に限りなく貢献できれば幸甚です。

今後とも変わらぬご支援を賜りますとともに、40周年、50周年の記念の日も、ともに笑顔で迎えられることを祈念して、ご挨拶いたします。



## 大場 隆博様

(特定非営利活動法人 しんりん 理事長)

一般財団法人セブン-イレブン記念財団設立30周年おめでとうございます。財団のことを知ったきっかけは2008年岩手・宮城内陸地震の被災地支援時でした。一緒に森づくりの活動を始めさせていただいたのは、2011年東日本大震災からでした。被災地の復興支援の中、私たちの森づくりが「セブンの森」の森づくりの考えと同じであるということで、宮城県大崎市鳴子温泉のリゾート開発に失敗し、100ha以上乱伐された森の再生として宮城セブンの森（267ha）の活動が始まりました。

企業のCSR活動として植林のみの一過性の活動が多いのですが、財団は植林、下草刈、間伐など長期に渡って森づくりをしてくださる他、森づくりは森から出てくる資源の経済的有効活用が必要との考えで、間伐された木材の積極的な活用にも取り組んでいただいております。サーキュラーエコノミーの取り組みとしても様々な木材の活用がありました。一例としては店頭を設置される木製の募金箱です。間伐された木材の建築材にならない箇所を使用、ビスではなく竹釘で接合し、使用後は部品の再利用の他、木部部分はペレットストーブ用の木質燃料となり廃棄物は一切発生しません。

また、長期にわたっての森づくりでは、毎年一緒に活動をしていただけるオーナーの皆さんとも交流ができました。これからも50周年、100周年と財団の活動が続き一緒に100年・200年の多様性のある循環する森づくりができたらと思います。



## 古川 恵太様 (特定非営利活動法人 海辺づくり研究会 理事長)

## 木村 尚様 (特定非営利活動法人 海辺づくり研究会 事務局長)

セブン-イレブン記念財団様、設立30周年おめでとうございます。2011年に横須賀市・走水海岸で、海草であるアマモが広がる「海の森」の再生のための種取り（花枝採取）活動を実施してから、早いもので12年が過ぎようとしています。それから間断なく東京湾各地での活動を継続され、現在では、青森市・塩竈市・館山市・阪南市での「海の森づくり」に広がっています。名実ともに日本の海の森を守り、育て、活用する取り組みを推進されるとともに、「海辺の自然再生・高校生サミット」の支援をとおして若者の育成にも力を注いでいただいております。

昨今、地球温暖化対策としてブルーカーボンの取り組みが注目されてきております。アマモ場の再生は、アマモが吸収した炭素が、海底へ堆積したり難分解性の炭素に変わることによって100年単位の炭素の固定（隔離）が行われるとともに、生物多様性を保全し、人々の海での活動を支える基盤となるといったコ・ベネフィット（共益）を生み出しています。

そうしたブルーカーボンの特質を早くから理解し、グリーンカーボン（水源の森・河畔林）の活動との一体的な「セブンの森」活動として多くの団体を支援し、自らも保全活動の先頭に立って走り続けられていることに深く敬意を表し、そうした活動にご一緒させていただいていることに感謝いたしております。今後ますますのご発展を祈念いたします。